

9/15 61

250

17 5

◆

◆

◆

◆

◆

◆

◆

□□□□□□

◆□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□

第61回日本弁護士連合会人権擁護大会 プレシンポジウム

多文化共生のために

2018
(平成30年) **9/15**
14時開始(13時30分開場)
埼玉会館3階 3C会議室 **入場無料 申込不要**

教育の現場から

日本で暮らす外国籍の方の数は、現在250万人を超えています。

埼玉県内には約17万人の外国籍の方が暮らしており、その数は全国で第5位です。そして、そのなかには、たくさんの子供がいます。また、日本国籍であっても、外国で生まれ育った子どももいます。外国籍の子どもや、外国で生まれ育った「外国につながる子ども」は、学校、進学、地域社会、家庭において、言葉、外見、文化の違いに起因する様々な苦難に直面することもあります。

今回のシンポジウムでは、埼玉で暮らす「外国につながる子ども」にスポットを当て、教育現場における課題や支援のあり方を広く市民の方々に知っていただき、望ましい支援、施策について、考える場としたいと思います。

基調報告

磯田三津子氏 (埼玉大学准教授)

外国につながる子どもたちをめぐる
学校教育の現状と課題

—埼玉県における外国人児童生徒教育の今後を考える—

パネルディスカッション

司会 埼玉弁護士会会員

磯田三津子氏 (埼玉大学准教授)

芳賀 洋子氏 (あそび舎てんきりん代表)

当事者の方



主催 埼玉弁護士会
共催 日本弁護士連合会/関東弁護士会連合会

お問合せ先 埼玉弁護士会 048-863-5255

第61回日本弁護士連合会人権擁護大会
プレシンポジウム

2018 (平成30年)

9/15
土

入場無料
申込不要

14時開始 (13時30分開場)

埼玉会館3階 3C会議室

多文化共生のために

教育の現場から

講師紹介

基調報告

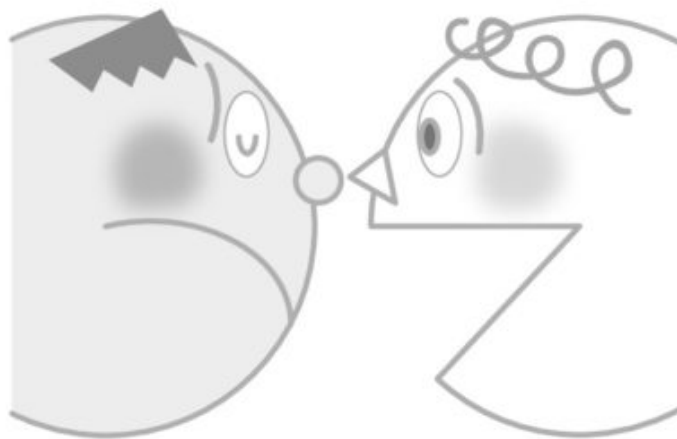
磯田三津子氏

(埼玉大学准教授)

外国につながるのある
子どもたちをめぐる
学校教育の現状と課題

埼玉県における外国人児童生徒教育の今後を考える

埼玉大学教育学部准教授。博士(教育学)。専門は、教育方法学、在日外国人児童生徒教育、多文化教育。著書に、「グローバル時代の国際理解教育」(共著、明石書店、2010)、「音楽教育と多文化主義」(三学出版、2010)など。



主催/埼玉弁護士会

共催/日本弁護士連合会/関東弁護士会連合会

パネルディスカッション

磯田三津子氏

(埼玉大学准教授)

芳賀洋子氏

(あそび舎てんきりん代表)

日本語ボランティア、日本語学校教師、日本語指導員約20年。

1999年以降、多文化の子どもたちが本来の力を活かして輝く街を目指し、地球っ子クラブ、子育ての会Coconico、てんきりんを設立、現在に至る。

埼玉県グローバル賞、ふれあい教育賞受賞、多文化共生推進委員2年。文化庁の事業受託13回。

当事者の方

スリランカ出身。小学生から中学生の頃に、日本とスリランカを行き来していた。埼玉県内の中学校・高校を卒業。その後、私立大学を卒業し、県内の企業に就職する。

現在は日本語とシンハラ語を活かして仕事をしている。

司会 埼玉弁護士会会員



お問合せ先 埼玉弁護士会 048-863-5255

□□□□□□ ⇒ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□